

## 交流を重ねて

玉川学園とベルリン・フィルメンバーによる  
交流プログラム



《1998》

アマデウスさんが初めて学園を訪問。以降、15年間で8回来園。芸術学科の学生アンサンブルへのレッスンを行った。写真は2000年、中高生へのレッスン。



《2004》

トランペット首席奏者のガボール・タルコビさんが2001年に続いてアマデウスさんとともに来園。中高生3名にソロ・レッスンを行った。

Enrich yourself,  
and enrich  
your music.



《2008》

アマデウスさんが来園。ヴァイオリンを専攻する芸術学科の学生に向けたレッスンのほか、中高生のオーケストラ部にもレッスンを行った。

《2011》

アマデウスさんとマシューさん、チェロ奏者のニコラス・ローミッシュさんが来園。音楽から得たイメージで3年生が絵を描く「アート」の授業をスタート。



Thank you for the  
brilliant performance.  
See you again!

《2013》

右写真のカルテットメンバーで来園。一般客も見学できる芸術学部生への公開レッスンのほか、ミニ・コンサートも開催された。



### プログラム

第1部  
ミニ・コンサート

ベートーヴェン  
「弦楽四重奏曲第6番」全4楽章

第2部  
ミニ・レクチャー

第3部  
芸術学部の公開レッスン

課題曲 シューポア  
「協奏的二重奏曲」より第1楽章

# 「子どもたちに一流の音楽を」

玉川学園では創立時より、子どものうちから一流のもの、本物に触れさせることが大切だと考え、世界に名だたるスキーヤーや体操選手、音楽家などを各国から招聘し、教育活動に取り入れてきました。

玉川学園と“世界最高峰のオーケストラ”と称される

ベルリン・フィルのメンバーとの交流が始まって15年目となりました。

交流の軌跡をたどりながら、11月に行われた公開レッスンの模様をお伝えします。



ベルリン・  
フィルハーモニー  
管弦楽団メンバー

による公開レッスン&コンサート

主催：玉川大学 後援：ドイツ連邦共和国大使館

2013年11月19日  
玉川学園講堂



ライマー・オルロフスキー  
第2ヴァイオリン

マシュー・ハンター  
ヴィオラ

アマデウス・ホイトリング  
第1ヴァイオリン

シュテファン・コンツ  
チェロ

## 「本物」から学ぶ教育

文= 大谷千恵  
玉川大学教育学部 准教授

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーとの教育交流は、1998年に始まりました。ヴァイオリニストのアマデウス・ホイトリングさんが、来日公演の期間中に「音楽を通して、芸術に触発される喜びを若者と共有したい」と、交流ができる学校や大学を探していたことがきっかけです。

戻込みする音楽学校や音楽大学が多い中、アマデウスさんの意図を読み取り、すぐに手をあげた玉川に、日本のほかの学校とは違うものを感じたそうです。玉川の教育理念や創立者の「本物」から学ぶ教育理念にも深く共感され、15年もの間、玉川との教育交流にご尽力くださっています。

こうした教育交流を一過性の行事として終わらせてはもったいないと、成果やメンバーとのコミュニケーションの模様をウェブサイトに蓄積・共有できるようにしました。交流を重ねるごとに参加を希望するメンバーも増えました。低学年では、児童が演奏に触発され自由な発想で絵やムーブメントで表現するプログラムに発展しました。

印象深いのは、「いつも、これが最初で最後の演奏だと思って演奏します」というアマデウスさんの言葉です。日常の色々な場面で成長するチャンスがあること、「今」を大切にすることをよく話されています。私たちが日常の学びを大切にしながら、「今」を次の教育交流に繋げていきたいです。

☞ <http://www.tamagawa.ac.jp/info/berlin-phil/>



2002年、レッスンの合間に生徒と話すアマデウスさん



通訳を行う筆者（中央奥）。2013年、メンバー来園時に小原芳明学園長が出迎えた

### 音楽と芸術の持つ無限の「力」を感じて

玉川大学農学部生物環境システム学科4年 西平貴一

玉川とベルリン・フィルハーモニーとの教育交流のお手伝いは、発見と学びの多い貴重な体験となりました。私はこれまで楽器を演奏したり、演奏会で音楽を聴くといった音楽経験がほとんどありませんでした。しかし、撮影係として、3年生とメンバーとの創作活動を見ながら、音楽の持つ力と子どもたちの感性と創造性に衝撃を受けました。子どもたちが、メンバーの

演奏を全身で聴きながら、その曲調からイメージを膨らませて制作した絵画や身体を使って表現したムーブメントは、子どもたちの感性そのもので無限の「力」を感じました。マシューさんと子どもたちが、お互いにイメージを交換しあう姿も印象的でした。子どもたちの歌声を太陽の光に例えられたり、子どもたちの作品の上に自分のヴァイオラをかざし、ヴァイオラから音が聴

こえるようだとおっしゃっていました。音楽から色や映像を感じ取り、絵画から音を聴き取るという新鮮な発見でした。自由な発想や感性を育む玉川教育の素晴らしさを肌で感じました。芸術学部の公開レッスンは、素晴らしい演奏だけでなく、メンバーの価値観やライフスタイル、お人柄に触れることができ、とても有意義な内容だったと思います。このような機会をいただけたことに感謝するとともに、玉川で学んでいることを誇りに思います。

上：レッスンを受ける芸術学部の鈴木若菜さん（中央）と平山彩子さん（右） 中：絵を描いた児童に、マシューさんが微笑みながら質問を投げかけました 下：コンサートの合間に、音楽を始めたきっかけについて話すシュテファンさん



特派員



上：アマデウスさんのヴァイオリンからは、キレイな音が出ました 下：弦楽四重奏を聴きながら、絵を描き、思い思いにからだを動かしました

## アマデウスさんとのあくしゅ



特派員

玉川学園3年組 榎葉ヒカリ

11月19日の4時間目に、ベルリン・フィルハーモニーの人たちがいらっしゃいました。その人たちは、ヴァイオリンやヴァイオラに、チェロをもっていました。まず、わたしたちから、「野ばら」をうたいました。ベルリン・フィルハーモニーの人たちは、「心があたたくくなりました。」とびっくりしてくれちゃったんです。うたがおわると、「ヴァイオリンをならつてい人！」

ごうれしかったです。そして、いよいよ生でベルリン・フィルハーモニーの人の音をききながらアートやムーブをやりました。わたしはムーブで、きんちようしてしまいました。でもベルリン・フィルハーモニーの人の音は、すごくキレイな音でした。一番さいご、アマデウスさんとあくしゅしました。うれしかったです。あくしゅした手をあらっちゃうともったいないので、ハンカチにアマデウスさんとのあくしゅをうつけました。わたしは、ヴァイオリンをもっとれんしゅうしたいです。

## ベルリン・フィルメンバーとの交流レポート

特派員



2013年11月、ベルリン・フィルのメンバー4名が玉川学園を訪れ、児童・生徒・学生たちと「音楽」を通して交流を深めました。それぞれの立場でプログラムに参加し、メンバーと向かい合った低学年・中学年・大学生が特派員となり、当日の様子や自身で感じたことなどをレポートします。



特集  
音楽のある学校

### 感動を与えられる奏者になりたい

玉川学園8年ヒラヤ組 小川真輝

私がベルリン・フィルの奏者の方々を見て、話を聞いて感じたことは仲間を思うことの大切さです。私はオーケストラ部に所属しているのですが、それぞれが思い合い団結して一つの音楽を作れるように心がけています。今回はその団結と思いやりをとっても強く感じました。

ベルリン・フィルの団員は世界各国から集まっています。にもかかわらず、お互いコミュニケーションを上手にとっているのが、家族のように仲が良いそうです。私も今回感じた思いやりを大切にできる奏者になりたいです。

また、ソロの曲を見ていただいてアドバイスをもらう機会がありました。アマデウスさんは、曲を演奏するときは常にその曲が作られた時代や場所を想像することが大切だとおっしゃっていました。本当に演奏が上手な人は、演奏技術だけでなく想像力においても優れているのではないかと思います。

さらに奏者には感動を届けるということだけでなく、その曲を後世に伝える役目もあると思います。今回のこの貴重な体験を忘れることなく、私も人々に感動を与えられる奏者になりたいです。

上：ヴァイオリンケースに飾られていた5人のお子さんの写真を見せてくださいました 下：アマデウスさんがすぐ隣にいたので緊張しながら演奏しました

